

加茂川中学校だより2019



京都市立加茂川中学校
令和元年11月22日(金)

第9号 全国学力・学習状況調査
分析

文責：校長 太田勝

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果と生徒の学力向上に向けて

平成31年4月に中学校では3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。今回は国語と数学と英語の3教科で実施されました。全国調査で明らかとなった課題や、これまでの取組の成果を学校・家庭・地域間で共有し、生徒の学習状況の改善や日々の学校教育活動に活かすこと目的として、分析した結果をお伝えします。

★教科に関する調査結果について（公立中学校3年生の平均正答率）

	国語	数学	英語
京都市	73	61	56
全国	72.8	59.8	56.0



京都市教育委員会のホームページにおいても資料が掲載されていますのでご確認ください。
【ホームページURL】<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>

結果の概要 本校は、すべての教科において、全国の平均正答率よりさらに数ポイント高い結果となりました。

国語では「話し合いの流れを踏まえ、どうするか決まっていないことについて自分の考えを書く」設問では、平均を大きく上回っています。

数学では「連立2元一次方程式」を解く設問や「反比例の表から式を求める」設問で、平均を大きく上回っています。

英語ではほぼすべての設問で全国平均を大きく上回っており、特に記述式問題だけでなく、選択式・短答式問題についても無回答率は低く、問題を解こうとする意識の高さがうかがえます。

＜国語の出題のねらい＞

学校生活を想定した題材を用いて、文章や資料から必要な情報を読み取らせ、考えを記述させる設問が目立ちました。例えば設問1では、三つの短歌と選評を読み、短歌の中の言葉を使って情景や心情、自分が感じたことを書かせてています。また、設問2では議題や議論の方向性を見定め、まだ触れていない論点について自分の意見を述べさせていました。

＜数学の出題のねらい＞

前半は、数式や確率などについて主に基礎知識の定着状況を測る設問でした。後半では、数学的事象を題材に問題解決を仮説として示し、それが正しいことを順を追って説明させるなどして、筋道立てて思考する力を試す設問が目立ちました。表やグラフを用いて、日常生活の場面と数学を関連づけた設問も多くありました。



＜英語の出題のねらい＞

「聞く・読む・書く・話す」の4技能をパートに分けて、まんべんなく出題する構成でした。「読む」では、英文の内容に合致した絵やグラフから読み取れる内容を選ぶほか、食糧問題を説明する英文を読んで、自分の考えを書かせるような設問がありました。「書く」では学校を表す「絵文字」の二つの案を比べ、選んだ理由を25語以上の英文で記述させる設問もありました。

＜各教科ごとの分析＞ 本校の「強み」や「課題」および「指導の充実」に向けて



文章の構成や展開・表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつことについてはよくできています。話し合いでの発言についての説明で、相手に分かりやすく伝わる表現について理解することがこれからの課題となります。また、語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することも必要です。

授業では「目的意識をもって文章を読み、情報を整理し内容を的確に捉える」ことを意識する必要性を感じます。さらに、言語活動の質の充実・資質能力の明確化と共に、「授業で獲得した力」を普段の生活の中で活用していく指導も必要だと考えています。



基本的な計算力や関数の知識については普段の演習の成果が表れています。資料の活用の定着に課題があり。証明・説明文など記述式問題への対応への練習が必要です。「前提を考え説明する」・「資料の傾向をとらえる」・「事柄が成立り立つことを説明する」問題で無回答率が高くなっていることも課題であると考えます。

授業では対話場面の多い授業設定や、記述問題の出題と、その評価を生徒に示していく指導を充実させたいと考えています。また、「役立ち感」「問い合わせる授業」は生徒の学びに向かう力を育てるにつながると考えています。



話されたり、書かれたりしている内容そのものを理解することや、目的・場面・状況に応じて概要や要点をとらえることはおおむねできています。一方、条件を満たして解答してはいますが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りが見られる解答があります。ただし、聞くこと・読むこと・書くことの正答率はすべて全国を上回っており、無回答率が低いことが大きな特徴です。

授業では「聞くこと（読むこと）」だけにとどめずに、理解した内容について適切に応じる（話す・書く）ことにつなげていくように展開していくことをさらに進めたいと考えています。同時に、英語を日本語に置き換えるのではなく、どのような回答がふさわしいのかを意識しながら「聞くこと」「読むこと」に取り組ませたいと考えています。

＜生徒質問紙で「肯定回答」が高かったもの＞

○自分には、よいところがあると思いますか？
○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？
★学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか？
★学校に行くのは楽しいと思いますか？
○朝食を毎日食べていますか？
○家の人と学校の出来事について話をしますか？
○家で計画的を立てて勉強をしていますか？
★1. 2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度使用しましたか？
★あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思いますか？
○人が困っているときは、進んで助けていますか？
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？
★は特に「肯定的回答」が高かったもの

＜生徒質問紙で「肯定回答」がやや低かったもの＞

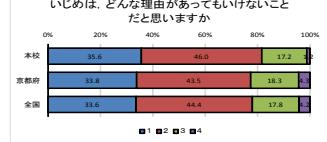
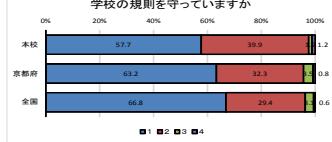
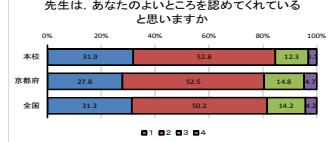
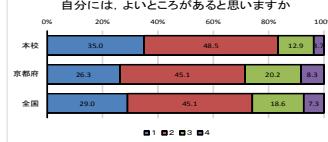
◆学校の規則を守っていますか？
◆難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか？
◆読書は好きですか？



★★★クロス集計より★★★ （上段：加茂川中　中段：京都府　下段：全国）

「生徒質問紙」の回答と「教科の平均正答率」には一定の関連がある項目があります。全国的な傾向として「自分にはよいところがある」と「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という項目において、肯定的な回答をした生徒のグループの平均正答率が高くなる傾向があります。さらに、「学校のきまりや規則を守っていますか」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目においても平均正答率に相関関係があります。生徒の自己有用感や自尊感情を育みながら学びと育ちを見守ることが大切です。

下のグラフは左から 1. よくそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない



保護者の皆様へ

全国調査は、生徒の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の結果からもこれまでと比べて、学力は着実に伸びており、生徒質問紙における肯定的な回答が多かったことも特徴的なことでした。これはご家庭での、子どもに対する積極的な関わりやご指導・ご支援の成果だと感じています。今後とも子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますようお願いいたします。

